

平成22年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	佐賀市立金泉中学校		
2 所在地	佐賀市久保泉町大字上和泉2361-1		
3 校長名	中野 義文		
4 学級数 児童生徒数	8 学級 225 人	5 実施学年 児童生徒数	1年 3年 計 74人 90人 164人

6 取組のねらい

- ① 体の不自由な方、高齢の方との立場に身を置いたり接したりすることで、『福祉』への関心を高め、自分ができることは何かを考える。（ユニバーサルデザインのうちのバリアフリー）
- ② 世の中のさまざまな製品・サービスを「楽しく」「使いやすく」という視点で提供している企業の考え方や実践事例に触れ、学校生活における人間関係の構築や生徒一人一人の生き方に還元する。

7 取組の実際（写真等を入れ具体的な様子がわかるようにすること）

【1年生での取り組み】

金立養護学校との交流学习の中で身体等にハンディキャップを持った仲間の思いや生き方（その家族を含）を通して自己の生き方を探るという目標を設定し、活動を行った。訪問に際し事前学習として、ビデオレター製作、福祉体験（車椅子体験、高齢者体験など）を行うとともに、交流学习のための遊具の製作も行った。



【3年生での取り組み】

社会科公民的分野で「企業を通して経済を考えよう」のめあてを設定し、企業競争の新たな視点としてユニバーサルデザインを紹介し、調べ学習として、企業のホームページを検索した。その他にも、私たちの身近にある建物や設備、電車やバスなどの乗り物、身の回りの日用品や電化製品なども調べた。



8 取組の成果と課題

ユニバーサルデザインの観点で見た事例に触れることで、いつも何気なく見たり使ったりしているものも、より多くの方が快適に使えるよう工夫がされていることに気づくことができた。1年生での養護学校交流は本校では通例となっており、「人のためにしてさしあげる」という考え方が自然と育まれている。また、企業においても、今まで以上に消費者の視点に立った商品開発が行われていることから、将来社会を担っていくことになる生徒へキャリア教育の一環として導入していくことも視野に入れてプランニングしていく必要があるといえる。ユニバーサルデザインの考え方は、身近な友人や自分が住んでいる地域、ひいては佐賀市、佐賀県のために自分に何ができるのかという勤労観、職業観にも通じるところでもあるので、各教科との機能的連携を図り、系統的に実施していきたい。